

日本地球電気磁気学会会報（第95号）

1982年7月20日

日本地球電気磁気学会

東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

(財)日本学会事務センター内

電話 03-815-1903

1. 第72回総会ならびに講演会の開催について

秋の学会は秋田大学のお世話により下記の通り開催されます。

1. 期間 10月2日(土)～4日(月)
2. 会場 秋田大学
3. 講演申込みおよび予稿集原稿送り先

〒657 神戸市灘区六甲台1-1

神戸大学 理学部

安川 克己 宛

締切り 8月20日(金) 必着

予稿集原稿は、同封の規定用紙に黒インクまたはボールペンで丁寧にお書き下さい。用紙がさらに必要な場合は、下記運営委員のところへとりに行くか、または学会事務センターあて直接御請求下さい。

東北大学理学部地球物理学教室

斉藤 尚生

京都大学理学部地磁気世界資料解析センター

荒木 徹

九州大学理学部物理学教室

北村 泰一

4. 電離圏（レーダー観測を除く）及び古地磁気に関する論文はポスターセッションとして募集いたします。プログラム編成の都合で若干調整させていただくこともあります。
5. 田中館賞候補者推薦および総会議題の申込みは、9月3日までに学会々長宛に書面でご提

出下さい。

送り先

〒153 東京都目黒区駒場 4-6-1

宇宙科学研究所

平尾 邦雄 宛

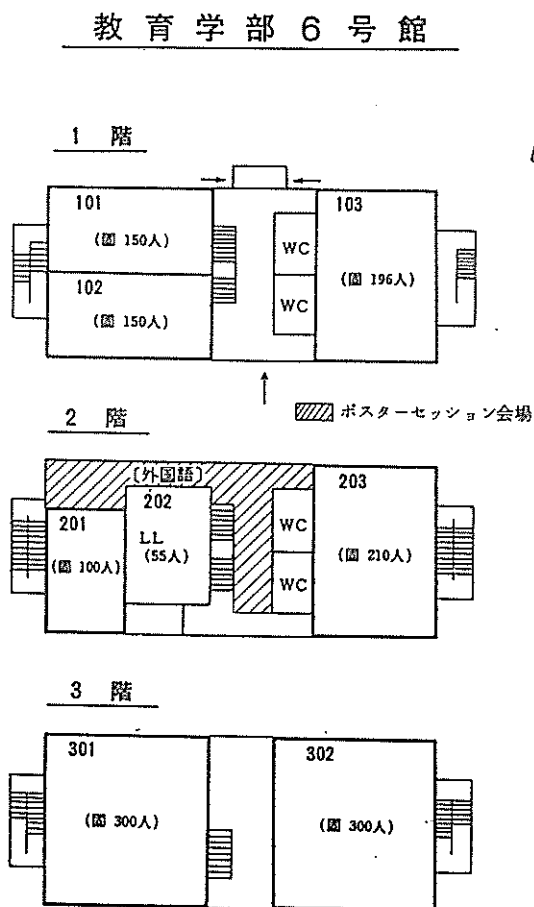
6. 締切り日を厳守して下さい。締切り日以降に到着した申込みは自動的に却下します。電話による申込みや遅延依頼は受け付けません。

II. 第72回日本地球電気磁気学会講演会会場案内

秋田大学 教育学部 6号館

秋田市手形学園町 1-1

電話 (0188) 33-5261(代)



III. 日本学術会議声明

日本学術会議第85回総会におきまして以下の声明文が出されましたので転載します。

国際地球観測百年記念に際して（声明）

地球とその自然環境を解明するためには、世界各国の科学者の協力が不可欠であり、国際協力観測事業が果してきた役割が大きい。本年は、世界最初の国際協力事業であった第1回国際極年が実施されてから100周年、第2回国際極年実施後50年、また、国際地球観測年実施後25年目にあたる。

我が国は、これらの国際協力事業に国内の観測網を整備・充実させて参加してきた。1957～58年の国際地球観測年事業に際しては、日本学術会議はこの事業への参加を政府に勧告し、特別委員会を設けて関係科学者の衆知を結集して計画の立案・推進にあたった。南極地域観測事業が開始され、宇宙空間研究が発足したのも国際地球観測年が契機になっている。また、その後も日本学術会議が実施を勧告した諸国際協力事業において、我が国は世界各国の科学者との協力のもとに大きな成果をあげ、国際学術交流にも大きく貢献している。

国際地球観測の歴史における意義深い年を迎えるにあたり、本会議は、国際協力事業に対する政府の深い理解に敬意を表すとともに、先人の努力による成果を顧み、その成果を国民に還元・普及するとともに、将来の研究への展望を得るに役立つ諸記念事業を関係機関及び科学者が実施することを期待する。

IV. 講演会・研究会

以下の二つの講演会が当学会協賛で行われます。

1. 第26回宇宙科学技術連合講演会

開催日時 10月25日（月）～27日（水）

会場 国立教育会館

〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3

Tel 03-580-1251

講演内容 宇宙科学および宇宙技術に関する最近の研究

申込期日（7月10日）は既に過ぎておりますが詳しくは、日本航空宇宙学会（
（Tel 03-501-0463）にお問い合わせ下さい。

2. 理化学研究所科学講演会（第5回）

日時 10月15日（金） 13時20分開会

場 所 経団連会館経団連ホール（14館）
東京都千代田区大手町1-9-4

題 目 「日本の自動車車体の鋼板とプレスとそれらの評価法」, 「明日の資源を探し求めて宇宙と深海底へ…島誠氏」及び「好アルカリ性微生物の世界」の三つ

聴 講 料 無 料

連 絡 先 理化学研究所 開発調査室
Tel 0484-62-1111 内線2301/2

V. 各種研究助成金・奨励金について

1. 沖縄研究奨励賞

趣旨 沖縄を対象とした自然科学・社会科学・人文科学の研究者の中から、将来性豊かなすぐれた研究を行っている新進研究者（2名）に与える。

助成額 50万円

締切 9月末日

詳しくは本学会総務または、沖縄協会・調査広報課（Tel 03-580-0641）までお問合せ下さい。

2. 日産学術研究助成

趣旨 自然科学を主とする学術の有意義な研究。助成対象分野を資源・エネルギー・環境の分野の基礎研究・応用研究とする。

助成額 1件当りの上限

一般研究 3,000万円（2～4年）

調査研究 500万円（2年）

推薦者 学（協）会の代表者（当学会も今年から含まれています。）

推薦締切 11月30日

詳しくは学会総務又は下記へお問合せ下さい。

財団法人 日産科学振興財団

〒104 東京都中央区銀座6丁目17番2号

Tel 03-543-5597

3. 過去1年間に申出のあった各種奨励金の団体名とおよその申込み締切日、助成額（いずれも年により変り得る）をまとめておきます。詳しくは学会総務までお問い合わせ下さい。

三菱自然科学財団	5月10日	1件2,000万円以下
東レ科学振興会	11月15日	1件300万円以下
日本証券奨励財団	3月1日～4月末日	
朝日賞	9月30日	100万円
沖縄研究奨励賞	9月30日	50万円
トヨタ財団	5月31日	
山田財団	来日 11月30日	
	派遣 11月30日	
	派遣短期	出発4ヶ月前の15日
	交流集会	9月30日
	研究援助	10月25日
日産科学財団	11月30日	
KDD国際通信研究奨励	6月20日	

VI. 当学会と関係のある機関の活動

1. 原稿募集

宇宙科学研究所では宇宙科学研究所報告「宇宙科学特集号」の原稿を募集しています。

応募締切 10月末日

問い合わせ，原稿送り先

宇宙科学研究所 清水 幹夫 宛

2. 会議日程，研究会案内等をお寄せ下さい。この欄に掲載して会員の便宜を計りたいと思います。

(会報係)

会員各位

前回お送りしました会報7頁に誤りがありましたので、お詫びいたしますとともに訂正箇所を
——— を入れ再送いたします。

Ⅹ 人事公募のお知らせ

このたび宇宙科学研究所が下記の様に二名の教官公募を行ないますので広く適任者の推薦・応募をお願い致します。

1. 公募人員 助手1名

2. 所属部門及び内容

太陽系プラズマ研究系，磁気圏電波科学部門。同部門には教授，大林辰蔵，助教授，鶴田浩一郎が在任中である。科学衛星観測により磁気圏プラズマ物理学の研究を行なうため，新たな観測計器を開発し実験に参加する。

3. 着任時期 決定後なるべく早い時期

4. 必要書類 (1)略歴，(2)研究歴，(3)論文リスト及び主要論文別刷各1部，(4)他薦の場合は推薦書，自薦の場合は本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先。

5. 締切 昭和57年6月10日(木)必着

6. 宛先 宇宙科学研究所 所長 森 大吉郎 〒153 東京都目黒区駒場4-6-1(電話03-467-1111)

7. 問合せ不明の点，及び資料の請求は下記あてに願います。

宇宙科学研究所太陽系プラズマ研究系 大林 辰蔵(電話03-467-1111 内線320)

8. 選考 選考は宇宙科学研究所運営協議員会議で行います。応募者中に適任者がいない場合は決定を保留することがあります。

9. その他 宇宙科学研究所は東京大学宇宙航空研究所が発展的に改組し，1981年4月14日付けで新たに発足した国立大学共同利用機関です。国内における共同研究並びに国際協力に積極的役割を果たす人を希望します。

10. 封筒の表に「助手応募(推薦)書類在中」と明記のこと。

1. 公募人員 助手1名

2. 所属部門及び内容

共通基礎研究系，宇宙空間原子物理学部門。同部門には教授高柳和夫，助教授市川行和(6月1日着任予定)，助手島村勲が在任中。原子分子過程の理論的研究と，その宇宙科学への応用(必要データの収集・評価を含む)に意欲をもつ人を求める。現在までの専門分野は問わない。

3. 着任時期 決定後なるべく早い時期

4. 必要書類 (1)略歴，(2)研究歴，(3)論文リスト及び主要論文別刷各1部，(4)他薦の場合は推薦書，自薦の場合は本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先。

5. 締切 昭和57年8月31日(火)

6. 宛先 宇宙科学研究所 所長 森 大吉郎 〒153 東京都目黒区駒場4-6-1(電話03-467-1111)